

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1272201193		
法人名	社会福祉法人 敬愛会		
事業所名	グループホーム ハートかしわ		
所在地	千葉県柏市高田1032番地1		
自己評価作成日	平成25年3月8日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 日本ビジネスシステム		
所在地	千葉県市川市富浜3-8-8		
訪問調査日	平成25年3月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者一人ひとりが心豊かに過ごせるよう支援している。外出を多く心がけ月に1回の外出を目標に行っている。デイサービスと連携を図り利用者個々の機能向上に努めている。常に開かれたグループホームを目指している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームハートかしわ」は同法人の特別養護老人ホームとデイサービスが併設された施設である。併設の施設とは日頃からレクリエーションや行事等で交流があり、生活活性化が図られている共に、緊急時や災害時の協力体制が構築されており、入居者・家族の安心・安全な生活に繋げている。また、デイサービスと合同でリハビリを実施しており、身体能力の維持に向けた支援を行い、入居者本位の生活が送れるよう取り組んでいる。他に、希望・生活歴・身体状況等に考慮し、毎日に入居者の係りが割り当てられおり、張り合いを引き出し自分らしく生活できるよう支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域社会に根ざした施設として地域と共生する、入居者が安心できる生活、生命を最大限に保障する、敬愛を持って接遇する、ニーズに即応するを主眼とした法人の理念を掲げていると共に、毎年、事業所の目標を職員全員で考案している。	「敬愛の精神」を主軸とした法人の理念を掲げており、地域との関わりを重視し、地域に望まれる施設を目指している。理念を施設内に掲示すると共に、研修や会議にてその都度確認を行っており、職員全員が理念を共有し、ケアの実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設全体で地域住民を交えたイベントがある。	散歩や外出時に、近隣住民とは挨拶を交わす関係づくりがなされていると共に、地域行事へ積極的に参加しており、地域との繋がりを大切にしている。また、併設の特別養護老人ホームとの合同行事への地域住民の招待や地域ボランティアの受け入れ等、施設の理解促進にも努めている。他には、中学生の職場体験や実習生の受け入れを行う等、社会貢献にも取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	疑問、質問については説明をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議で出た意見を職員間で再検討をしております、ミーティングを多くしている。	地域包括支援センター職員・民生委員・職員等を構成員として、年3回、運営推進会議を開催している。会議では、施設の活動報告や意見・情報交換等を行い、サービスの質の向上に活かしている。運営推進会議後に会議議事録を入居者家族へ送付しており、会議への理解促進を図ると共に、参加協力を促している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	柏市グループホーム連絡会に加入しており、連絡会を通じて市に意見や要望を提出している。また、市に対して業務全般における相談や連絡を随時行い、連携を図っている。	市職員とは、運営推進会議等で情報交換を行っていると共に、日頃から施設運営全般に関わる相談や報告を行い、密に連携を図っている。また、柏市グループホーム連絡会に参加しており、連絡会を通じて、市や他のグループホーム事業所と連携を深め、相互にサービスの質の向上に取り組む体制が構築されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について具体的に取り決めをしている。玄関は自動で施錠されるようになっており、開錠方法も説明してあり自由に出入りできる。	施設方針として身体拘束排除を掲げ、事業所内に掲示している。また、マニュアルを整備すると共に、職員研修も実施されており、身体拘束のないケアの実践に取り組んでいる。玄関においては日中は施錠を行わず、入居者の自由な生活を支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修参加に努めていると共に、併設施設での虐待について学んだり防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等で学ぶ機会はあるが、該当する入居者はおらず支援は行っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の事前面接での説明及び契約時の重要事項説明書により、十分に行っている。退居時にもご本人、ご家族が納得されるまで話し合う。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の面会時や電話連絡時にご意見・ご要望を確認している。頂いたご意見・ご要望については職員間で周知、検討を行い適切な対応に努めている。	苦情相談窓口や意見箱を設置していると共に、家族の面会時や電話連絡時に、直接意見・要望等の確認を行っている。挙げた意見や要望に対しては、全職員で検討して周知を図り、迅速で適切な対応に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃からのコミュニケーションやミーティング、また、6ヶ月に1度の考課査定の面接時等で意見を聴く機会がある。	定期的に会議を開催し、職員全員の意見や提案を確認できる機会を設けている。また、管理者が職員と個別に話す機会を設けており、個々の意見や思いの把握に努めている。挙げた意見・情報等は会議にて検討を図り、サービスの向上に活かしている。内部・外部研修への参加や柏市グループホーム連絡会による同業者との交流の機会も確保されており、計画に基づいた人材育成に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	6ヶ月に1回行う考課査定で個々の状況を把握するとともに併設の特養やデイサービスなどその人に合った人員配置で向上心を持てるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	柏市グループホーム連絡会にて行われる勉強会や外部研修には積極的に参加をしている。研修参加後は、報告書・資料の回覧にて、情報の共有を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	柏市グループホーム連絡会に加入しており、他施設との意見・情報交換を行っていると共に、勉強会、見学会等が開かれ相互の質の向上に努めている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談は随時受け付けている。利用に至る場合、必ず2、3回の面接を行い、不安や疑問等への明確な説明を行う。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	同上		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容に沿った解決策(他のサービス利用も含め)を提案し対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の希望や能力に応じて家事等の生活活動を共同で行っている。職員は、園芸や料理が得意な入居者からアドバイスを受けると共に、人生経験や生活の知識を学んでおり、共に支え合う関係が築かれている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	適宜状況報告を行い必要に応じて協力を頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご契約される方の禁止がない限り全ての方の面会に応じている。また、ご家族の要望に応じ冠婚葬祭等への参加支援も行う。	地域行事やお祭りへの参加・墓参り等、一人ひとりの生活歴や趣味等を考慮し、希望に添った柔軟な外出支援を行い、馴染みの人や場所との関係継続に努めている。また、家族との外出や外泊等も自由となっており、家族との関係継続にも配慮している。併設の特別養護老人ホームやデイサービスとの交流を積極的に行い、新たな馴染みの関係構築に取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	他の入居者への不満等に対しては十分な説明を行い理解しあえる関係作りに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談等は随時受付、必要に応じて転居先に訪問も行う。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時にご家族・ご本人と面談を行い、ご本人・ご家族の意向や生活歴等を記録している。また、日々の生活において、ご本人・ご家族から意向を確認している。定期的に意向や生活歴等を記録した基本情報表を更新し、常に新しい情報が職員へ周知できるよう努めている。	入居時に本人や家族から意向・生活歴・身体状況等を確認し、記録している。また、必要に応じて医師の意見書や他のサービス事業所から情報の提供を受け、詳細な情報の把握に努めている。入居後は、日常の会話や観察等から意向を汲み取り、記録を更新すると共に、会議にて検討・周知・共有を行い、新しい情報を基に、入居者の意向に即したサービスの提供に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人・ご家族から生活歴等情報収集を行いアセスメントシートに記載している。その内容を折りにふれ話題にする。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	散歩コース、入浴時間、レクリエーション、外出等においてご本人の希望と有する力を把握して支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画においては、会議にて職員が意見を出し合い、計画作成担当者が作成している。また、面談時にて確認しご本人・ご家族の意向や生活歴に合わせた介護計画の作成に努めている。作成後は、職員への周知を図ると共にご家族に説明を行い了承を得ている。	介護計画においては、本人・家族の意向を踏まえ、職員会議にて話し合いを行い、介護計画を作成している。定期的に介護計画の目標達成状況の確認や評価を行うと共に、必要に応じて介護計画の見直しを実施し、現状に即した介護計画の作成に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌や申し送りノートに個別記録し、情報を共有し、日々のケアやケアプランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設の特養に来る理美容や訪問歯科を希望に応じて利用したり、デイサービスでのレクリエーションへ参加し交流を図っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域で行うふれあいリハビリやふれあいサロンに参加し地域の方との交流を楽しんでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院以外にも、希望のかかりつけ医への受診が可能となり、希望により職員が通院を支援している。定期的に歯科往診を実施し、口腔ケア・歯科治療がなされると共に、必要に応じて内科往診を実施しており、適切な医療支援をしている。	協力病院以外にも、希望のかかりつけ医への受診が可能となり、希望に応じて通院の付添い支援も行なわれている。また、内科医・歯科医の往診も実施されており、適切な医療支援が行われている。定期的に併設の特別養護老人ホームの看護師職員による健康管理・服薬管理・相談対応等が実施されており、入居者・家族・職員等の医療面における不安解消に繋げている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設の特養の看護職に相談を行える体制が出来ており、適切な健康管理をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはお見舞いへ出向き、病院関係者から情報収集を行い退院後も病院関係者との相談等の連絡を図り関係作りをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族と十分に話し合い医師と連携を取りながら、ご本人・ご家族の意向に沿った終末期の支援を目指している。	重度化や終末期における施設の方針を作成しており、本人・家族に説明し、了承を得ている。重度化・終末期においては、入居者・家族の意向確認を繰り返し行うと共に、医師や看護師等と相談しながら、全職員が意向に添った支援の実施に向け取り組んでいる。また、日頃から医療機関や関係機関等と連携を密にし、状況変化に応じて円滑な切り替えや適切な支援が行えるよう協力体制の構築を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ご利用者の急変や事故発生時のマニュアルがあり、新人職員には指導するが定期的には行っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急時マニュアルや緊急時連絡網を作成している。避難訓練・消防訓練を併設の施設と合同で行っている。訓練の時は、職員、入居者、近隣住民等も参加していると共に、夜間を想定した訓練等も行っている。また、併設施設にて備蓄や緊急持ち出し袋が用意され緊急・災害時への対策をしている。	マニュアルや避難経路図等が整備されていると共に、火災報知機・通報装置・スプリンクラー等が設置されており、災害時・緊急時に備えている。年2回、消防署立会いのもと、併設の特別養護老人ホームと合同で、消防避難訓練を実施しており、夜間想定・連携の強化・避難方法の確認・備蓄品の再点検等が行われている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	施設独自に接遇ルールを定めており、その人に合った言葉遣いやさりげない介助を職員が意識していると共に、入浴・排泄時のプライバシー保護の重要性を意識し、入居者の尊厳を尊重したサービス提供をしている。	接遇・プライバシー保護のマニュアルを整備しており、運営方針に人間尊重を掲げると共に、法人による内部研修も実施されており、職員全員への接遇やプライバシー保護の徹底指導が行われている。全職員は言葉遣いやケア方法等に十分注意を払い、入居者の尊厳を尊重し、プライバシーを損ねないサービスの提供に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その利用者の好きな事、関心の高い話題等で希望を言いやすいように働きかけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の日課は定めておらず、ご本人のペースや希望に沿った生活を支援している。また、ご本人の希望に応じて散歩やレクリエーション等に参加してもらっていると共に、特技を活かした活動を支援しており、ご本人らしい生活を支援している。希望が言い出せない入居者に対しては、日々の観察や会話の中から希望を汲み取っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	普段はご本人が着たい服を着ている。外出・行事の時は目的や状況等最低限のアドバイスをし、ご本人が選べるように支援する。理美容もご本人の希望により受け入れられるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	併設施設の管理栄養士が作成した献立を基に入居者の希望を取り入れながら行っている。	入居者の希望や能力に応じて、食事の準備や片付けを職員と共同で行っている。献立においては、併設の特別養護老人ホームの栄養士が作成した献立表から選択しており、入居者の希望や旬の食材を取り入れながら、栄養バランスに配慮した食事提供がなされている。また、定期的に行事食・外食会・誕生会等を実施しており、食の楽しみを広げている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設施設の管理栄養士が栄養バランスを考えた献立を作成していると共に、嗜好や能力に応じた食事提供をしている。また、水分の摂取目標を定めており、食事・水分の摂取量を記録している。摂取量が不足している場合は、好みの物や摂取しやすい物に変更し、必要な栄養の確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨きの支援を行う。週1回来る訪問歯科に必要に応じて受診する。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	それぞれの排泄パターンを把握し、入居者に応じた支援を行う。不安や羞恥心への配慮から1対1の対応を行っている。	排泄チェックリストを活用し、一人ひとりの排泄パターンへの把握に努めると共に、適切な声掛け・誘導を行い、オムツやパッドの使用頻度を減らす等、排泄の自立に向けた支援を行っている。必要に応じて医師や看護師と相談しながら排泄コントロールを行い、適切な排泄習慣の確保に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給、食事のバランスを心掛け便秘予防をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は毎日実施されており、希望に応じて回数や時間等柔軟に支援している。また、清拭等を実施し、入居者の清潔保持に努めている。浴室は広く、床暖房も設置されており、快適な入浴を支援している。入浴拒否に関しては、声掛け等を工夫し無理強いしないよう配慮している。	入浴は毎日実施されており、入居者の希望や体調に応じて柔軟に対応している。また、必要に応じてシャワー浴・部分浴・清拭等も実施しており、入居者の清潔保持に努めている。浴室は十分な介助スペースが確保されていると共に、脱衣所にはヒーターや床暖房が設置され、入居者が安心・安全で心地よく入浴ができるように配慮されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の好みやスケジュールに合わせて休憩や入眠時間を決めている。寝具類もご本人の希望を優先している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理ファイルで各個人の薬の用法・用量・副作用等が分かるようになっている。医師の指示通り支援し薬の変更があった場合には申し送り、症状の変化を観察する。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	希望や能力に応じて家事等の生活活動を共同で行っている。毎日、塗り絵や歌等のレクリエーションを実施していると共に、園芸等の得意分野を活かした趣味活動を支援している。また、併設のレクリエーション活動や合同行事に参加し、楽しみを提供している。定期的な行事を企画・実施、ご家族や地域住民を招待し、様々な人との交流を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に応じ毎日、散歩を行っている。定期的に外出を企画しており戸外での楽しみを支援している。	入居者の希望や体調に応じて、散歩・買い物・ドライブ等の外出支援を行っている。法人の福祉車両を活用し、定期的に外出会を企画・実施しており、様々な外出活動が行われている。また、直接中庭へ出られるようになっており、気軽に外の空気に触れる事が可能となっている。他に、併設のデイサービスや特別養護老人ホームへの行き来が頻繁に行われており、施設外の人達との交流が楽しめるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる入居者にはしていただき、できない入居者には力量に応じて支援している。金銭管理できない入居者へは立替式をとっておりご家族に同意を得ている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の要望により支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	バリアフリーとなっており、廊下や共有スペースは広く設計されている。リビングには、テーブルやソファーが設置され、入居者が自由にくつろげる環境となっている。また、エアコン・換気扇・加湿器にて適切な空調管理に努めている。トイレ・浴室は十分な介助スペースが確保していると共に、呼び出しブザーを設置し安全面に配慮を行っている。中庭には畑があり、ボランティアと共同で野菜や花の栽培を行っている。	施設内は全面バリアフリーとなっており、廊下・玄関・トイレ等ゆったりとしたスペースが確保されている。リビングにはテーブル・ソファー等が設置され入居者が居心地良く、思い思いにくつろげるように配慮されていると共に、加湿器等も設置されており、季節に応じた空調の配慮もなされている。中庭へは直接出られるよう設計されており、家庭菜園やガーデニングを楽しむ等、気軽に外気に触れ、季節を感じる空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーや椅子を置いて、一人ひとりが自由に過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の希望により、馴染みの物を持ち込む事が可能であり、居心地よく生活できるよう配慮している。全居室にエアコンや換気扇を設置し適切な空調管理に努めている。全居室に洗面台を設置し利便性に優れていると共に、希望に応じてナースコールを設置し、安全面に配慮している。	入居者の希望により自由に馴染みの物を持ち込む事が可能となっており、安心して生活ができるように配慮している。また、希望により畳や絨毯を敷く事も可能となっており、意向に添ったその人らしい生活ができるように工夫している。全居室には洗面台が設置されており、利便性に優れた造りとなっていると共に、エアコン・換気扇も設置されており、安全に快適に過ごせるように配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	一人ひとりの身体機能に応じた介助を行いできるだけ自立した生活をしていただいている。また、随時所在確認等を行い安全に配慮している。		